

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 駒澤大学らしいFDを目指して
FD推進委員会小委員会委員
藤原 篤志
- 公開授業
総合教育研究部 萩原 義雄
総合教育研究部
セイジ、クリスティ J.
- 2008 年度「学生による授業アンケート」(後期) 集計結果
- 遠隔授業の取り組みー実務表現
総合教育研究部 萩原 義雄
- FD推進委員会の今後の活動予定

駒澤大学らしいFDを目指して

FD推進委員会小委員会委員
経営学部准教授 藤原 篤志

本稿では、約2年間にわたりFD推進委員会委員・小委員会委員を担当してきた経験を踏まえ、本学におけるFDの推進に関して若干の私見を述べさせていただきたい。なお委員としての経験に基づく私見と言っても、大学におけるFDの専門知識を有するわけではなく、浅薄な経験・知識に基づくものであり、身勝手な見解になっていることをご了解いただきたい。

本学のFDは教職員による個々の取組みや、学部等・委員会による組織的な取組みにより、少しずつその成果を挙げていると思われる。しかしながらその推進は基本的に、日本の大学全体の流れに合わせ、他大学に対して遅れを取らないよう意識する形で進められてきており、大学基準協会の評価を意識した「他律的な」推進になっているように思える。もちろん大学基準協会による評価結果に配慮し、その助言に添えていくことや、他大学の取組みに学ぶことは重要である。しかしFDの議論のスタートは学外ではなく、学内にあると考える。すなわち、FDへの取組み(例えば、具体的なFDの実践制度や手法)は、FDの究極目標である本学の教育理念や教育目標(各学部等の教育目標も含む)の達成を意識して検討すべきではないだろうか。義務教育とは違い大学教育は画一的なものではなく、それぞれの大学の個性(理念)が教育に反映されるべきである。よってFDのあり方も同様で、決して画一的なものである必要はなく、駒澤大学にあった「駒澤大学らしい」FDを目指すべきであろう。例えば、以前から検討されてきた「学生による授業アンケートの結果の公表」であるが、学生の履修の際の参考にするために、全学生に結果が公表されている大学が複数ある。本学の場合はこのような目的での公表はうまく機能せず、むしろカリキュラムを無視した安易な履修につながり、学部の教育目標が達成できない可能性があると思われる。

以上の点は中央教育審議会が求めている「FDの実質化」とも関わっている。単に制度化に止まらず実質化を図るためには、その制度そのものが単なる外からの移植ではなく、本学(もしくは学部)の教育理念・目標に調和したものが望ましい。そうすればFDの実質化において不可欠な教職員のコミットメントが得られるであろう。

公開授業

平成 20 年度の公開授業は、FD NEWSLETTER 第 15 号、第 17 号に掲載したとおり合計 11 科目の授業を公開しました。今号では、12 月 3 日に開催した次の 2 科目をご紹介します。

担当教員：萩原 義雄

科目名：実務表現

実施日・教場：12 月 3 日（水）3 時限 1-201

授業内容：

詩や短歌を用いてことば遊びから学ぶ。

日常良く目にする日本語のなかでも、「ことば遊び」をふんだんに使用する宣伝広告媒体を前提にしながら、古典的な詩や短歌の修辞法の教養性を学ぶことによって、現代日本語の文章を綴る新たな表現方法の手がかりを導き出すことを主眼にこの講義を設定した。

担当教員：セイジ、クリスティ J.

科目名：英会話

実施日・教場：12 月 3 日（水）1 時限 1-305

授業内容：

英会話のストラテジーについての文法を学ぶ。

- 1) 話題は “ Authentic ” 教材から選ぶ。
- 2) 教師から英会話のストラテジーの使い方を教え、デモを示す。
- 3) Pairwork で学生に英会話のストラテジーを練習させる。

「FD」とその実践 実務表現

総合教育研究部教授 萩原 義雄

教材づくりの取り組み

年間の集大成に尤も近い一二月三日の第三時限目、通年科目の一つである「実務表現」を受講する学生の協力の下、FD 推進委員会の定例公開授業をスタートさせた。この日の講義テーマを「詩や短歌を用いて “ことば遊び” から学ぶ」とし、私は今回も実に周到に準備していった。――二〇一教場の機器モニターの取り扱いを含め、時間内で何を伝え、何を以て魅了するか？九〇分の予習が与えられた二ヶ月の日々と学

習の蓄積を基にプレゼンテーション資料が少しずつ構築されていく。教える者としてこの準備する一抹の緊張感とその愉しみの時間を与えてくれたことに感謝するところから始まった。と同時に、この日に先立つ一週間前には、別の目論見でもあるヨーロッパ、イタリア国ミラノからの「遠隔授業」を試みてきていた。この報告は、別途記載する。

当日、参観していただいた先生から、「この準備にどの位の時間をおかけになっているのですか？」の問いかけに、「まともは二時間ほどですが、教材作りの素材収集には測り知れない時間を掛けてきました」と素直にお応えした。

その一つを例示するのであれば、東京近代美術館で二〇〇八年三月九日まで開催されていた展示媒体「わたしいまめまいしたわ」の現地での画像撮影のことからも証明されよう。この表現は、上から読んでも下から読んでも同じということば遊びである「回文」を以て、人々に己なるものを意識化して伝えようとする。視覚性の最たる手段である。これを最も身近の場所で展開されている文章表現の一つであり、この新鮮さ溢れる情報を受講生に伝えることで、気づきの世界を促してみたいという知のくすぐりでもあった。こうした新しいものから古典的なものへの継続性を PC ソフト「AGREE」を使って一六枚分のパネルを以て展開したのである。



最高級のを伝えたい

日本の教育教材の取り組み方に誰もが気づかない落とし穴がポツカリ開いている。この穴は何か？幼児には幼児用の教材、少年少女には小学校教材といった段階を追った取り決め教材である。初心者だから、素人だからと先にお膳立てして、最も高い水準値にある教材を雲霞のうちに隠してしまう姿勢そのものである……。それはある意味で無難な教材作品作りを展開する。なぜ、最高のものを最高のものとして見せ、触れさせないのかとつくづく考えてしまう。音楽も絵画も彫刻も、そして言語表現も人が精魂込めて世に送り出してきた

ものなのだから、ガラスの陳列ケースで覆われた内からは、その気魄に満ちた精氣がどうして届くのかと自問する時間が必要であろう。重要性のある大切な品物であればこそ、その美しさや感触さを鋭敏に看守できる場と時を提供し続けたい。その感性をより若い時分から会得して欲しいが所以である。「埒」の中で括られたものは、見やすく使いやすいかもしれない。でも長続きしない。「埒」の外なるものは、取り扱いにくいかもしれない。であるが故に人として創意工夫が模索される。最初は思うように動かないものが、徐々に徐々に力を増して自在に操れる喜びを知って欲しいと願うからだ。

FDのアンケート結果を分析する

定時に授業アンケートを学生対象に調査する。これが毎時別の諸先生に対しても彼らは凡て応えてきた。最初は新鮮な内容も、定時に行われることもあってか伝える思いも稀薄さを生み出していないだろうか？アンケート結果が届く時分には、その年の講義は終了に向かっていている。応えてくれた受講生には申し訳ないが、これを使って吾身を振り返り反省材料として生かすことすら許されない。課題が多すぎる。課題内容が明確でない。板書の字が離れた場所から読み取りにくい 出欠の取り方などといった自由書き込みを追って読むと、まだまだ、教壇に立っていて言い尽くしがたいことが彼らにはあるのだということを真摯に受け止めねばなるまい。課題は日々の修練の故、絶え止むことのない泉のように涌出するものでなければならない。その流れを堰で止めることの方が虚しい虚無を生む。一度旨味を知ったものは、その旨味を離れるのに半年をかけて、素の自分を取り戻す努力が必要となるからだ。

素直に進めていく

はじめりは、何時ものように連絡内容を伝えることからはじめた。講義であろうと「報告」「連絡」「相談」の「ホウレンソウ」が大事であるからだ。電子掲示板に書き終始徹底していても読まぬ学生もいる。ここで再度伝えることで確認がとれる。

この間に、受講生の方もPC電源から授業取り組み準備に移る作業が各自で進められている。用紙一二枚分のテキストを引き出す。PC利用の講義に戸惑う学生も少なくなってきた。サーバ接続で所定の講義内容資料を受け取る。でも、時折問題は思わぬ状況下で起こりもする。サーバにアクセスが

出来ない。このときも考慮に入れ、「Yestady」という別のアクセスの場を設置して二重に教材を用意し、対処してきたことが功を奏した。受講生が臨むことは、自身のPC画面に掲示内容を反映させ動かすこともできるようにという要望を紙の媒体已上に動かす授業の日も遠くないと考えながら、この取り組みをまとめてみた。



英会話のパフォーマンステスト

総合教育研究部講師 セイジ、クリスティ J.

公開授業の内容：

本授業では学生たちがペアで会話するテストを行った。この授業の目的は、英語を使って議論するスキルを学ぶことである。議論の流れは3つの段階になっている。最初の段階では、5つの話題の中から1つを選んで、それについてペアで議論したり、違う意見を言ったりする。次の段階で反対側の意見を聞くことで、最後にみんなで話題について妥協するように話を収束させなければならない。このようなパフォーマンステストの前に、学生たちは先生と一緒に、上記の5つの話題をインターネットでニュース記事から探しておく。その後、話題に一般的に使われる英語での適当な表現を練習するのである。このテストはクラスの学生たちの前でするパフォーマンスでなくペアでIC Recorder(録音機械)を使うことによって行われる。この結果学生たちがテストを慎重にするようになった。

英語での議論の録音が終わった直後に、教員は学生たちに

渡した IC レコーダーを YeStudy ウェブページにアップロードする。こうするのはいくつか理由がある。一つは、教員が時間がある時、家でも IC レコーダーにより、評価することができるからであり、一方学生たちは IC レコーダーを再び聴くことによって、どこが一番間違っているかを見つけて、それをやり直すことができるからである。また、先生と学生は授業ではそれらにもとづいてマンツーマンの英会話を行うことにもなる。

参加してくれた先生たちから色々な質問があった。その中に：

- 1 . 大きなクラスがあるなかで、そんな少人数の授業スタイルが可能なのか。
- 2 . 記事の内容のソースはどこにあるのか。
- 3 . この授業はどのような基準で評価をするのか。

教員からの回答：

- 1 . このコースはレベル の選択授業なので、特に英会話が上手になりたい学生のためのクラスである。この教え方は、学生同士が刺激をうけあい、英語での研究やペアワークも必要で、個人パフォーマンスなども重要となる。
- 2 . テストの前に教員からモデルとして話題や議論について色々な例を提示する。それを参考にして学生たちは自分で研究して、そのトピックを YeStudy のフォーラムにアップロードする。次の授業の前に学生たちは皆で複数のトピックについて復習し、その中から 5 つを選ぶ。それらをテスト内容にすることになる。
- 3 . この教え方はタスクベースの教え方で有名な ELLIS 氏のやり方に基づいている。この教え方の効果を測定するには、学生の前期成績と後期成績を比較してゆくことになる。



Elective English Conversation : Performance Test

In this course, students are required to do performance tests which aim to evaluate students' discussion skills in English. This concept comes from the pedagogical framework of task-based language and learning of which the researcher Ellis is notable in the TESOL field. This teaching method has 3 interconnected stages: pre, during and post task (Ellis, 2003).

For this FD demonstration, attendees witnessed the during task activity - a performance test. Pre-task activities included students searching on the internet for light, yet controversial social topics from websites recommended by the teacher as reputable (such as the BBC online news). Then, the forum and wiki function of YeStudy were used to store the information for all members to view; as ultimately only 5 topics could be chosen for the test which was done so by consensus.

During the performance test, in pairs, students constructed a discussion whereby despite both students having different opinions; they had to end by coming to a "compromise". First and second "if conditionals" were some of the grammatical points that students were expected to use to: a) achieve a compromise and b) obtain a pass grade. Since the students were recorded by an IC recorder during the performance test, the Mp3 file was uploaded to YeStudy for students to review their mistakes for future performance tests.

Q&A:

Attendees were concerned that this pre-during-post task methodology would be difficult and time-consuming to conduct for larger classes. This may be a valid argument which would be interesting to see whether it is or not. In addition, it was questioned as to how student improvements could be measured. In response to this criticism, I believe audio recordings from

both 1st and 2nd semester should be compared.

If you would like any further information, please contact me at:

sagek@komazawa-u.ac.jp

2008 年度「学生による授業アンケート」(後期) 集計結果

2008 年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。また、その結果については、科目分野ごとに、質問項目に基づき学部・学科の平均値を示した。

実施日	平成 20 年 11 月 5 日～11 月 11 日
対象科目	1,810 科目
対象者数	156,425 人
実施科目数	1,803 科目 (99.6%)
回答数	76,497 枚 (48.9%)

【質問項目】

講義科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 教材・資料等は効果的に使われていましたか。
- Q 8 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 10 . 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。

すか。

- Q 11 . 板書やスライド等の資料提示は見やすかったですか。
- Q 12 . 私語等の雑音がなく授業に集中できる環境が保たれていましたか。
- Q 13 . この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q 14 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 15 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
- Q 16 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
- Q 17 . 担当教員による個別質問
- Q 18 . 担当教員による個別質問
- Q 19 . 担当教員による個別質問
- Q 20 . 担当教員による個別質問

実験・実習科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
- Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
- Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1 週間に何時間くらいですか。
- Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
- Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
- Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
- Q 7 . 教材・資料等の利用は実験や実習の理解に役立ちましたか。
- Q 8 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
- Q 9 . 教え方はわかりやすかったですか。
- Q 10 . 教員の話し方の声量・速さは聞き取りやすかったですか。
- Q 11 . 実験機材の使用等についての説明は、わかりやすかったですか。
- Q 12 . 私語等の雑音がなく授業に集中できる教場でしたか。
- Q 13 . この授業で知的刺激を受けましたか。
- Q 14 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
- Q 15 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。

- Q16 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
 Q17 . 担当教員による個別質問
 Q18 . 担当教員による個別質問
 Q19 . 担当教員による個別質問
 Q20 . 担当教員による個別質問

語学科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
 Q 2 . 授業に熱心に取り組みましたか。
 Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
 Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
 Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
 Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
 Q 7 . 補助教材の視聴覚資料(カセット、ビデオ等)を効果的に取り入れていましたか。
 Q 8 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
 Q 9 . 教え方はわかりやすかったですか。
 Q10 . 発音・速さは聞き取りやすかったですか。
 Q11 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
 Q12 . この授業で知的刺激を受けましたか。
 Q13 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
 Q14 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
 Q15 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
 Q16 . 担当教員による個別質問
 Q17 . 担当教員による個別質問
 Q18 . 担当教員による個別質問
 Q19 . 担当教員による個別質問

保健体育実技科目

- Q 1 . 履修にあたって「講義内容・授業計画」をよく読みましたか。
 Q 2 . 授業時間中は実技に集中し、熱心に取り組みましたか。
 Q 3 . この授業の予習・復習にあてた時間は、1週間に何時間くらいですか。
 Q 4 . 授業の進み方はあなたにとって適切でしたか。
 Q 5 . 授業の難易度はどうでしたか。
 Q 6 . 授業はおおむね「講義内容・授業計画」にそって進められましたか。
 Q 7 . 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられましたか。
 Q 8 . 教え方はわかりやすかったですか。
 Q 9 . 器具・用具について適切な説明がなされましたか。
 Q10 . 雑音などがなく授業に集中できる教場でしたか。
 Q11 . この授業を友人や後輩に勧めたいと思いますか。
 Q12 . この授業について全体的な満足度をお聞かせください。
 Q13 . 授業の開始時刻・終了時刻は守られていましたか。
 Q14 . 休講は少なく通常通り、授業は実施されましたか。
 Q15 . 担当教員による個別質問
 Q16 . 担当教員による個別質問
 Q17 . 担当教員による個別質問
 Q18 . 担当教員による個別質問

個別項目についての学科・専攻別平均値

表1 - 1～表4 - 2は、5段階で評価された各項目について、項目別平均値を示したものである。

なお、担当教員による個別質問の項目については掲載していない。また、有効回答が2名以上あった学科・専攻のみ掲載した。

表1 - 1 講義科目

学部(学科)専攻	仏教(禅)	仏教(仏教)	文(国文)	文(英米文)	文(地理)地域文化研究	文(地理)地域環境研究	文(歴史)	文(歴史)日本史学	文(歴史)外国史学	文(歴史)考古学	文(社会)社会学	文(社会)社会福祉学	文(心理)
Q01	3.3	3.3	3.3	3.3	3.5	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.1	2.8	3.3
Q02	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.4	3.4	3.4	3.2	3.4	3.4
Q03	1.5	1.5	1.3	1.4	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.2	1.4	1.3
Q04	3.2	3.2	3.1	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.2	3.2	3.3
Q05	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.5	3.4	3.5
Q06	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.5	3.7
Q07	3.8	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8	3.6	3.8	3.7
Q08	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9
Q09	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5	3.4
Q10	3.6	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6	3.6
Q11	3.3	3.3	3.3	3.3	3.4	3.3	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3	3.3
Q12	3.7	3.7	3.6	3.6	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	3.7	3.6	3.5	3.7
Q13	3.5	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.7	3.7	3.4	3.6	3.6
Q14	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.5
Q15	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0	4.1	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0
Q16	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1
有効回答数	1,092	2,181	3,687	2,930	1,545	1,306	658	1,530	1,192	738	1,421	1,628	1,921

表 1 - 2 講義科目

学部(学科)専攻)	(経済) (経済(A))	(経済) (経済(B))	(経済) (商)	(経済) (現代応用経済)	(法) (法律A)	(法) (法律B)	(法) (政治)	(経営) (経営(A))	(経営) (経営(B))	(経営) (市場戦略)	(医療健康科) (診療放射線技 術科)	(GS) (GM)	(短期大学)
Q01	3.3	3.4	3.4	3.2	3.3	3.3	3.4	3.3	3.4	3.0	2.6	3.2	3.6
Q02	3.4	3.6	3.5	3.5	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.4	3.3	3.5	3.0
Q03	1.5	1.6	1.5	1.7	1.5	1.5	1.4	1.5	1.5	1.6	1.7	1.7	1.4
Q04	3.2	3.2	3.2	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.4	3.3	3.2	3.0
Q05	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.6	3.4	3.0
Q06	3.6	3.8	3.7	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.8	3.5	3.4	3.7	4.0
Q07	3.5	3.8	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	3.7	3.7	3.5	3.5	3.8	3.7
Q08	3.8	4.0	3.9	3.7	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.6	3.7	3.9	4.4
Q09	3.3	3.6	3.5	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	3.2	3.3	3.6	3.9
Q10	3.5	3.7	3.6	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.7	3.3	3.4	3.6	4.0
Q11	3.2	3.5	3.3	3.3	3.1	3.2	3.2	3.3	3.3	3.2	3.2	3.5	3.6
Q12	3.6	3.8	3.6	3.5	3.7	3.9	3.7	3.6	3.8	3.2	3.4	3.6	3.9
Q13	3.4	3.7	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.3	3.4	3.6	3.9
Q14	3.4	3.7	3.5	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.4	3.4	3.6	3.9
Q15	3.8	4.0	4.0	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.9	4.1
Q16	4.0	4.2	4.1	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1	3.8	3.8	3.9	4.1
有効回答数	6,057	932	3,595	1,433	5,082	2,018	3,602	5,645	1,042	772	2,152	3,770	7

2 - 1 実験・実習科目

学部(学科)専攻)	(仏教)禅)	(仏教)仏教)	(文)国文)	(文)英米文)	(文)地理)地域文化研究)	(文)地理)地域環境研究)	(文)歴史)	(文)歴史)外国史学)	(文)歴史)考古学)	(文)社会)社会学)	(文)社会)社会福祉学)	(文)心理)
Q01	3.4	3.2	3.4	3.7	3.1	3.0	3.2	3.3	3.5	3.3	2.5	3.7
Q02	3.9	3.7	3.8	4.3	3.9	4.0	3.4	3.7	3.7	3.8	3.6	4.1
Q03	1.4	1.3	1.1	2.3	2.4	1.9	1.4	1.0	1.3	2.0	1.4	1.0
Q04	3.1	3.0	3.0	3.0	3.4	3.3	3.0	3.0	3.2	3.0	2.8	3.1
Q05	3.3	3.1	3.3	3.0	3.8	3.3	3.0	3.0	3.2	3.3	2.8	3.6
Q06	4.0	4.0	3.8	4.3	3.7	3.9	3.5	4.3	3.8	4.8	3.6	4.0
Q07	4.1	3.8	3.8	4.0	4.0	3.9	3.6	4.3	3.8	4.0	3.9	4.0
Q08	4.3	4.3	3.7	4.0	4.1	4.1	3.4	4.7	3.8	4.0	3.8	4.1
Q09	4.0	3.7	3.6	4.3	3.4	4.0	3.8	4.0	3.8	3.8	3.5	4.1
Q10	4.0	4.0	3.6	4.0	3.7	3.9	3.8	4.3	4.0	3.8	3.0	4.3
Q11	3.7	3.4	3.5	4.3	3.5	3.8	3.8	3.7	3.7	3.5	3.3	3.9
Q12	3.9	4.1	3.8	4.3	3.9	4.4	3.6	4.3	3.8	4.8	4.1	4.0
Q13	3.9	3.7	3.7	4.0	3.9	3.8	3.6	4.3	3.8	3.8	3.8	4.0
Q14	3.9	3.8	3.9	4.7	3.6	3.9	4.2	4.0	4.0	4.3	3.8	4.0
Q15	3.9	4.2	3.8	5.0	4.1	4.2	3.6	4.3	3.9	4.8	3.7	4.4
Q16	4.0	4.2	3.7	5.0	4.1	4.2	3.0	4.3	3.8	4.8	4.1	4.3
有効回答数	90	135	50	3	68	51	5	3	46	4	12	7

表 2 - 2 実験・実習科目

学部(学科)専攻)	(経済)経済(A)	(経済)商)	(経済)現代応用経済)	(経営)経営(A)	(GS)(GM)
Q01	3.7	3.8	4.7	3.2	2.9
Q02	4.0	4.2	4.3	4.2	3.7
Q03	1.0	1.8	1.7	1.0	1.4
Q04	3.0	3.2	3.0	3.0	2.9
Q05	3.0	3.8	3.3	3.0	3.1
Q06	4.3	4.4	4.7	3.5	3.6
Q07	4.0	4.0	4.0	3.8	3.3
Q08	4.0	4.4	4.3	4.0	3.5
Q09	4.3	4.4	4.3	4.0	3.6
Q10	4.0	4.4	4.7	4.2	3.4
Q11	4.0	3.6	4.0	3.5	3.3
Q12	4.3	4.6	4.0	4.5	3.8
Q13	4.3	4.0	4.0	4.0	3.4
Q14	4.7	4.2	4.7	4.2	3.4
Q15	4.0	4.2	3.7	4.7	3.8
Q16	4.0	4.4	4.0	4.7	3.9
有効回答数	3	5	3	6	17

表 3 - 1 語学科目

学部(学科)専攻)	(仏教)禪)	(仏教)仏教)	(文)国文)	(文)英米文)	(文)地理)地域文化研究)	(文)地理)地域環境研究)	(文)歴史)	(文)歴史)日本史学)	(文)歴史)外国史学)	(文)歴史)考古学)	(文)社会)社会学)	(文)社会)社会福祉学)	(文)心理)
Q01	3.0	3.0	3.0	3.1	3.0	3.1	3.0	3.0	3.1	3.0	2.7	2.5	2.8
Q02	3.5	3.4	3.4	3.6	3.4	3.5	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6
Q03	1.8	1.7	1.6	1.5	1.6	1.7	1.6	1.7	1.7	1.8	1.4	1.8	1.6
Q04	3.3	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.2	3.1	3.1	3.3	3.2
Q05	3.5	3.4	3.3	3.4	3.3	3.4	3.2	3.3	3.5	3.2	3.2	3.6	3.3
Q06	3.7	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.4	3.5	3.4	3.6
Q07	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.6	3.4	3.4	3.4	3.1	3.5	3.6	3.7
Q08	3.9	3.8	3.9	3.9	3.8	3.9	3.7	3.8	3.8	3.5	3.8	3.9	3.9
Q09	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.6	3.4	3.5	3.3	3.5	3.3	3.6
Q10	3.5	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.3	3.5	3.5	3.6
Q11	3.9	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.7	3.7	3.8	3.6	3.8	4.0	3.9
Q12	3.4	3.4	3.5	3.6	3.3	3.5	3.4	3.3	3.5	3.2	3.4	3.4	3.5
Q13	3.5	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.5	3.6	3.3	3.6	3.5	3.6
Q14	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	3.9
Q15	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1	4.1	4.2
有効回答数	346	617	827	1,387	372	337	131	272	333	220	342	353	401

表 3 - 2 語学科目

学部(学科)(専攻)	(経済)(経済(A))	(経済)(経済(B))	(経済)(商)	(経済)(現代応用経済)	(法)(法律A)	(法)(法律B)	(法)(政治)	(経営)(経営(A))	(経営)(経営(B))	(経営)(市場戦略)	(医療健康科)(診療放射線技術科)	(GMS)(GM)
Q01	3.1	3.2	3.1	3.1	3.0	2.9	2.9	3.1	2.8	3.0	2.3	3.0
Q02	3.5	3.5	3.5	3.6	3.4	3.5	3.5	3.6	3.5	3.4	3.1	3.9
Q03	1.7	1.7	1.7	1.9	1.7	1.8	1.6	1.7	1.7	1.8	1.6	2.3
Q04	3.2	3.0	3.2	3.2	3.1	3.0	3.2	3.1	3.1	3.2	3.0	3.2
Q05	3.2	3.0	3.3	3.4	3.3	3.0	3.3	3.2	3.3	3.1	3.1	3.5
Q06	3.6	4.0	3.7	3.6	3.6	3.7	3.7	3.7	3.7	3.6	3.1	3.8
Q07	3.4	3.6	3.6	3.4	3.3	3.5	3.5	3.5	3.2	3.7	3.3	3.4
Q08	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.7	3.9	3.3	4.0
Q09	3.4	4.0	3.5	3.5	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.6	3.0	3.8
Q10	3.4	3.9	3.4	3.5	3.4	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.1	3.8
Q11	3.8	4.1	3.7	3.6	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.7	3.4	4.0
Q12	3.3	3.7	3.4	3.4	3.3	3.4	3.4	3.5	3.4	3.4	2.9	3.9
Q13	3.4	4.0	3.5	3.5	3.5	3.7	3.6	3.6	3.5	3.5	3.0	3.8
Q14	3.8	4.3	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	3.8	3.9	3.4	4.2
Q15	4.0	4.3	4.1	4.0	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	3.5	4.3
有効回答数	1,397	20	914	518	1,466	422	965	1,697	237	318	188	1,329

表 4 1 保健体育実技科目

学部(学科)専攻)	(仏教)禅)	(仏教)仏教)	(文)国文)	(文)英米文)	(文)地理)地域文化研究)	(文)地理)地域環境研究)	(文)歴史)	(文)歴史)日本史学)	(文)社会)社会学)	(文)心理)	経済)経済(A)	経済)商)
Q01	4.0	4.1	3.4	3.3	4.0	4.0	3.0	3.5	3.3	3.3	4.1	3.3
Q02	4.5	4.1	4.4	5.0	4.6	4.4	3.0	4.0	4.2	4.7	4.4	4.1
Q03	3.0	1.9	1.0	1.0	1.2	1.1	1.0	1.0	1.1	1.3	2.2	1.5
Q04	4.0	3.7	3.0	3.0	2.9	3.0	3.0	3.0	3.4	3.0	3.4	3.2
Q05	4.0	3.0	2.9	3.7	2.9	2.9	3.0	3.0	3.2	2.3	3.4	3.1
Q06	5.0	4.1	3.7	4.3	3.8	4.0	3.5	4.5	4.3	4.3	4.1	3.9
Q07	5.0	4.1	4.1	5.0	4.1	4.3	4.0	4.5	4.6	4.7	4.3	4.2
Q08	5.0	3.9	3.6	4.0	3.9	4.1	4.0	4.5	4.2	4.0	4.2	3.9
Q09	5.0	4.1	3.6	5.0	3.8	3.4	4.0	4.5	4.1	4.3	4.1	3.9
Q10	5.0	3.7	4.1	2.7	3.7	4.1	3.5	5.0	4.0	4.7	4.1	3.9
Q11	5.0	4.6	4.2	4.3	4.4	4.6	3.5	4.0	4.5	5.0	4.2	4.0
Q12	5.0	4.1	3.9	4.3	4.4	4.3	3.5	4.5	4.4	5.0	4.5	4.1
Q13	5.0	4.3	4.1	4.7	4.2	4.3	4.0	5.0	4.3	4.3	4.4	4.2
Q14	5.0	4.6	4.2	5.0	4.3	4.9	4.0	5.0	4.6	4.7	4.4	4.2
有効回答数	2	7	9	3	10	7	2	2	10	3	22	67

表 4 2 保健体育実技科目

学部(学科)専攻)	経済(現代応用経済)	法(法律A)	法(政治)	経営(経営A)	経営(市場戦略)
Q01	3.5	3.2	4.0	3.7	4.0
Q02	4.1	4.4	4.4	4.1	4.5
Q03	1.5	1.3	1.8	1.5	2.5
Q04	3.1	2.8	3.4	3.3	3.0
Q05	3.1	3.4	3.2	3.0	3.0
Q06	3.9	3.7	4.0	4.1	3.5
Q07	4.1	4.4	4.0	4.1	4.0
Q08	3.8	3.8	3.6	3.8	3.5
Q09	3.9	3.8	3.8	4.0	3.5
Q10	3.9	3.8	3.8	4.0	3.5
Q11	3.8	4.1	4.2	4.0	4.0
Q12	4.0	4.4	4.6	4.1	4.0
Q13	4.0	4.4	3.8	4.2	3.5
Q14	4.0	4.7	4.2	4.2	4.5
有効回答数	31	17	5	42	2

遠隔授業の取り組み - 実務表現 -

総合教育研究部教授 萩原 義雄

取り組みの経緯と実際

過去遠隔授業を試みたのは、二〇〇三年四月に苫小牧駒澤大学と本校との間で「表現法(話すこと)」の講義として実施した経緯がある。あれから五年を経過し、科目も「実務表現」、IT 機器も数段と進化し、機材設備も多くのコストをかけずにできることに加え、地元の知人たちや有力の雑誌社との協力提携もあって、イタリア国ミラノを基軸にした普通の観光では味わえない都市ミラノや水の都ヴェネチア、トスカーナの農園地帯などの施設や線の一筋通った人々と直に接する私の教育姿勢を遠隔授業に取り入れる機会を得たのである。実際、日本とイタリアの時差八時間が最も重要課題となった。東京の本学三時限目である十三時には、ミラノ時間では早朝の五時であった。

この時差をまずクリアすることとして、事前に本学側での協力体制を整備すること、次に現地で纏めた大量データの写真資料をプレゼンとして前日までに予め地元ミラノで編集し、これを送信しておくことが重要な課題でもあった。データ容量は一回で送るには多く、九つのデータに分轄送信して、日本側スタッフが再び連結する。これで六項目の報告資料を相互間で最終確認する。続いて、大学教室側で受講生の容子を映し出すことがなされる。これを常時定点カメラで送られる仕組みを更に充実しておかないと、咄嗟の切り替えに対応がむづかしいことも見えて来た。こちらからの画像がどう届いているのかも見えない。項目の流れを崩さず現地側である私は、ゲストの軍司泰徳さんと二人三脚で少しでも大切なこまーこまの内容を真心を込めて発信する。

「通訳」ということ

この六項目のなかで主軸テーマとして据えたのが「通訳」ということであった。伝達して得た内容をどう書き出すのか？観たものを具に判断し報道する事象ニュースのあり方も可能であるが、現地の声を彼らのことばで表現する。ある意味で日本語でも方言で話す内容例えば、「但馬村岡米が金賞を受賞ただで。ごっち～なあ。村岡の野菜もうみや～けど、お米も日本一でうみや～もんだなあ」を共通語に置き換

えることで相手の気持ちのこもったニュアンスを失う可能性を含んでいるのに類似するからだ。このことは読者や聴き手に届けようとする姿勢が失われてならないという発信する側として務めていく上で常に中核に位置する。これは現地に長年滞在する軍司さんの全面協力 六月の講義にて直接受講生に講演していただいている信頼性などが助けられていたことは慥かであった。

記録として遺すこと

この遠隔授業の内容は、残念ながら受講された学生一人ひとりの記憶として留まるに終わった。写真も映像も一つとして記録されていないからだ。それぞれ役割の大切さが浮き彫りとなって来た。だが、惟故に鮮明な記憶映像の装置が働き出す可能性を秘めていると私は考えている。プロデュースするとは、人をその氣にさせる役目を担う。学生の多くは、まだ訪れたことのない世界で繰り広げられている異国イタリアにおける日々の営みをどう見つめたのか？また、現地から東京の受講生に呼びかけをする好機を見いだせなかった己の対応も反省すべき一つであった。今回の報告が私以外の諸先生方の次なる遠隔授業に生かしていただけたら幸いである。と同時にこの遠隔講義にご助言ご協力いただいた本校情報メディア係を中心とするスタッフに感謝の意を表したい。



《記録》

二〇〇八年一月二〇日成田からローマ乗り継ぎ経由で現地ミラノ入り。遠隔授業の教材づくりとして現地取材。

サン・ジミニャーノ、一六六六年のパルサ・ミコ農園と継承者。

ヴェネチア、オペラ劇場&カジノ（作曲家ワグナーの居住跡）

ミラノシティ・マラソン

隔月雑誌「Luxurymagazine」編集長との対談。

リサさん宅でのパーティ

ミラノの街。

編集開始。前日深夜（東京朝九時）まで編集プレゼン資料を送信。

二六日早朝五時（東京一三時）遠隔授業開始。六時半（東京一四時半）終了。

近くのバルにて朝食。朝八時半ローマ経由帰国スタッフ一行を見送る。夕方の飛行機にて帰国。



F D 推進委員会の今後の活動予定

平成 20 年度第 4 回 F D 推進委員会開催

平成 21 年 3 月 3 日（火）

F D 活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

編集後記

FD NEWSLETTER 第 18 号をお届けいたします。採点・成績評価の時期と重なり公務ご多忙の最中にもかかわらず、原稿依頼をご快諾の上、締切に余裕をもってご寄稿頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

今号の一面記事として、F D 推進委員会委員・小委員会委員を 2 年間務められ、さらにはワーキンググループでもご活躍頂いた藤原先生にその豊かなご経験を踏まえて、本学の F D への取組みについて思料されること等をご執筆頂きました。

12 月に実施された 2 つの公開授業の報告は、いずれも今日的なメディアが上手に活用されている興味深い内容です。英会話のセイジ先生には、日英両文でお書き願えました。これに加えて、萩原先生には、海外からの遠隔授業の実践について、有り難く別途にもご寄稿頂きました。今後同様の試みを考えている教員にとって、大変参考になります。

また、5 頁以下には、2008 年度後期授業アンケートの集計結果を掲載いたしました。今回は、全科目（但し、受講者 20 名以下の講義、演習科目、複数教員担当科目を除く）について授業アンケートを実施しましたが、全科目を対象とすることについては、先生方から賛否両論のご意見を頂きました。次年度以降も全科目についてアンケートを実施するか否かについては、今後の検討課題とされています。

（上野勝広、塩入みほも）

【タイトル横の写真は、正門側の河津桜】

F D NEWSLETTER Mar.2009 第 18 号

発行日：2009 年 3 月 2 日

発行者：駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

03-3418-9125 Fax 03-3418-9114

（事務局：教務部）